

科学研究費(研究代表者:長谷川信子)2008年度研究活動報告

雑誌名	Scientific approaches to language
巻	8
ページ	195
発行年	2009-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00000731/

平成 19-21 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (B)
『文の語用的機能と統語論：日本語の主文現象からの提言』

研究代表者 長谷川信子

2008 年度 研究概要

本研究プロジェクトの研究目的と課題は以下のようなものである。

GB 理論までの統語理論では扱い切れなかった「語用的機能と関わる現象」を統語構造との関係で、そうした現象が豊富でかつ特徴的に現れる日本語の現象を中心に、日本語学における知見も取り入れながら広範囲に考察し、日本語の統語論から統語理論への貢献を目指す。

今年度は、この研究（平成 19～21 年度）の 2 年目であり、充実期にあたることから、昨年度に得られた研究成果を広く国内外の研究者に発信し情報交換することに加え、来年度（最終年度）に向けての推進となるような新たな知見を取り込むことに重きをおいた活動を行った。

こうした観点から、4 月～7 月には、MIT の宮川繁教授（Sabbatical により CLS に affiliate）によるミニマリズムの最先端と関わる講義シリーズを設定し、7 月には国内外からの研究者を招聘したワークショップを開催し、本研究の成果の発表に加え、理論言語学と日本語学、両面からの活発な意見交換の場を持った。また、今年度から本学大学院に着任した遠藤喜雄教授を分担者に加え、現在ヨーロッパで進行中の Cartography の知見を取り込むことで文の機能（Force）と CP 構造を集中的に考察しその成果の一部は、上記ワークショップに加え、5 月のロンドン大学での学会（長谷川）、11 月の日本英語学会（於：筑波大学）のシンポジウム（遠藤、長谷川）3 月のジュネーブ大（遠藤）などで、発表した。

これらの成果は、昨年度の報告書や 7 月のワークショップでの論文を含め、現在、出版物として刊行すべく編纂作業に入っており、来年度内には、広く公表予定である。